vinetur

スペインとフランス、農薬使用を最大70%削減するブドウ品種の実証試験を開始

TRANSFERESは、気候変動の影響が強まる南欧のブドウ畑で、病害に強く干ばつに耐える品種を比較するプロジェクト

2026年11月19日（木）



スペインとフランスの新たな国境を越えた研究プロジェクトで、真菌病への耐性が高く、干ばつにも強いブドウ品種の試験が行われる。ワイン生産者は、気候変動や作柄の悪化、農薬使用に対する規制強化の圧力に直面している。

11月19日（木）、バスク地方の研究機関NEIKERは、国境の両側にある複数のワイン産地で、新品種やこれまであまり利用されてこなかったブドウ品種の特性を調べるプロジェクト「TRANSFERES」の調整役を務めると発表した。研究では、べと病やうどんこ病などに強い品種と、とりわけ水不足などの環境ストレスに耐えられる品種に焦点を当てる。

このプロジェクトは、南欧各地のブドウ畑が気温上昇、降雨の不規則化、病害の発生パターンの変化に直面するなかで始まる。こうした変化は栽培環境を変え、収量とブドウ畑の管理の双方に影響

を及ぼしている。NEIKERによると、病害の拡大に加え、病原体が植物保護製品に対する耐性を強めていることから、化学的な防除を減らしながら生産を維持できる代替策を見つけるよう、生産者への圧力が高まっている。

こうした取り組みは、欧州連合（EU）の政策とも合致する。NEIKERによると、EUの「Farm to Fork（農場から食卓まで）」戦略は、2030年までに植物保護製品の使用量とリスクを50％削減することを掲げている。耐病性ブドウ品種は、生産者がこの目標に近づく助けとなる可能性がある。同研究機関によれば、こうした品種は真菌病への耐性をもたらす遺伝的形質を持ち、植物衛生処理の必要性を最大70％減らせる可能性がある。

TRANSFERESでは、スペインとフランスの複数の産地で、改良品種と、伝統品種のうちあまり利用されていないものの両方を調査する。研究者は、栽培特性、植物の健康状態、環境への影響、ストレスへの反応、ワイン醸造用ブドウの品質を測定する予定だ。厳しい条件下でブドウが生育できるかだけでなく、商業的なワイン生産に適した果実を実らせるかどうかも明らかにすることを目指す。

NEIKERの植物生産・保護部門の研究者で、プロジェクトの調整役を務めるAna Diez氏は、生産者が品種を栽培体系に取り入れるか判断する前に、異なる気候や土壌条件での生育特性を把握することが不可欠だと述べた。実際のブドウ畑で品種が導入可能かどうかについて、プロジェクトを通じて生産者により明確な根拠を示すことを目指す。

フランスでの経験が重要な役割を果たす見込みだ。NEIKERによると、フランスの参加機関は耐病性品種を実地でより広く活用しており、一部は商業的なワイン生産にも使われている。プロジェクトを通じて、その知見をスペイン側の参加者と共有する一方、スペインの異なる気候や土壌で試験を行い、現在の生産環境以外でこれらの品種がどのように適応するかについて、フランス側にもデータを提供する。

この取り組みには、成果の普及に向けた活動も多く盛り込まれている。主催者によると、規制当局、生産者、技術スタッフを対象に、実演イベントや国境を越えた会合、説明会を開催する。また、技術資料や出版物、情報発信ツールを作成するほか、正式なプロジェクト終了後も成果が活用されるよう、ワイン原産地呼称、協同組合、ワイナリー、研究機関との連携を築く計画だ。

研究では、社会がこれらの品種をどう受け止めるかも調べる。この点は、品種の商業的な将来を左右する可能性がある。生産者が馴染みのないブドウ品種を大規模に導入するには、ブドウ畑での生育状況と同様に、消費者やワイン市場全体に受け入れられるかどうかが重要になるとみられる。

この問いは、飲料業界全体にも広く関わる。耐病性と耐干ばつ性を備えたブドウ品種を、ブドウの品質を損なわずに導入できれば、ワイナリーにとっては生産リスクや防除コストを抑え、より極端な気象条件下でも供給を維持する手段となり得る。長期的には、気候変動の圧力が強まる地域で、ワイン生産の安定化を支える可能性がある。ただし、商業面への影響は現地試験の結果と市場の受容度に左右される。

TRANSFERESには、スペインとフランスの研究・産業分野の7団体が参加する。NEIKER、アラゴン食品研究技術センター（CITA Aragon）、ARTOMAÑA TXAKOLINA, S.L.、カタルーニャ・ブドウ・ワイン研究所（INCAVI）、フランス・ブドウ・ワイン研究所（IFV Pôle Sud-Ouest）、オート＝ガロンヌ県農業会議所、Viñas del Vero S.A.U.である。

プロジェクトの総予算は1,008,436.39ユーロで、このうち655,483.65ユーロを欧州地域開発基金が拠出する。1月1日に開始し、2028年12月31日まで実施する予定だ。NEIKERによると、プロジェクトは「POCTEFA 2021-2027」として知られるEUの「Interreg VI-A Spain-France-Andorra」プログラムを通じて、EUから65％の共同助成を受ける。同プログラムは、国境地域の経済・社会統合の強化を支援する。